2026 年 11 月 17 日
シスメックス株式会社

【発表概要】

第 45 回日本認知症学会学術集会 第 41 回日本老年精神医学会 合同大会

軽度認知障害症例における全自動免疫測定装置を用いた血漿中 eMTBR-tau243 測定

発表者	保科 佑樹[1]、村上 駿[1]、藤田 真由[2]、森津 悠貴[1]、大橋 知子[1]、周 慧[1]、土岐 日向子[2]、渡部 俊介[3]、石木 健吾[1]、島 佳史[2]、角中 ちひろ[1]、三浦 雅央[1]、岩永 茂樹[1] [1] シスメックス株式会社 中央研究所 [2] シスメックス株式会社 診断薬エンジニアリング本部 [3] シスメックス株式会社 先端技術開発センター
発表概要	**背景** アルツハイマー病における脳内タウ病理を反映する血液バイオマーカーとして、微小管結合領域を含み、C 末端側が内在的に切断されたタウ断片（eMTBR-tau243）が注目されている。我々はこれまでに、血漿中の eMTBR-tau243 を定量可能なイムノアッセイを開発し、アルツハイマー型認知症（AD）において濃度が上昇することを報告している。本研究では、軽度認知障害（MCI）における eMTBR-tau243 濃度を測定し、認知機能正常（CN）および AD と比較した結果を報告する。 **方法** 血漿 eMTBR-tau243 アッセイは、全自動免疫測定装置 HISCLTM-5000 を用いて開発した。臨床的に診断された CN（n=14）、MCI（n=70）、AD（n=11）の市販血漿検体における eMTBR-tau243 を測定し、群間の濃度差を比較した。 **結果** MCI 群における eMTBR-tau243 濃度は、AD 群と比べて有意に低値であった。一方で、CN 群と比べて有意差は認められなかったが、複数症例で AD 群と同等の値を示した。 **結論** 血漿 eMTBR-tau243 は、AD へ病期が進行した段階で上昇するバイオマーカーである可能性が示唆された。一方で、MCI 群においても、AD 群と同等の高値を示す例がみられたことから、MCI においてもタウ病理が進行している症例が存在する可能性があると考えられる。
セッション	診断-8 / P488

シスメックス株式会社
神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 〒651-0073
Tel 078-265-0500 Fax 078-265-0524